

ねぶた祭りのふれあい

市川 芳子さん
主婦 西比奈 3(29歳)



たっぴみさき

この夏、青森の龍飛岬に住んでいる主人の友人を2人で訪ねました。ねぶた祭りに参加するのが最大の目的でしたが、友人は海に潜り珍しい魚をとってくれました。奥さんも初対面のような気がしないほどのもてなしをしてくれたり、夫婦で歓迎してくれました。

ねぶた祭りでは、正装して汗びっしょりになって踊りました。自分たちも青森県人になったように感じ、若人と一体となることで、私たちが若返ったようなすがすがしい気分になりました。

このように普段味わえない、また味わえても、より一層心に残る人とのふれあいがそこにはありました。

今は主人と2人ですが、近い将来家族で旅行し、多くの人々と接することができるのを夢見ているこのごろです。

旅で自然を満喫

宮川 木綿子さん
看護婦 一色(22歳)

私は旅でリフレッシュしています。ゴールデンウィークやお盆はもちろん、連休になれば必ず出かけているといっても過言ではありません。親には「出かけてばかりで、男みたいだ」と言われています。

私の旅は長野や日光方面に車で出



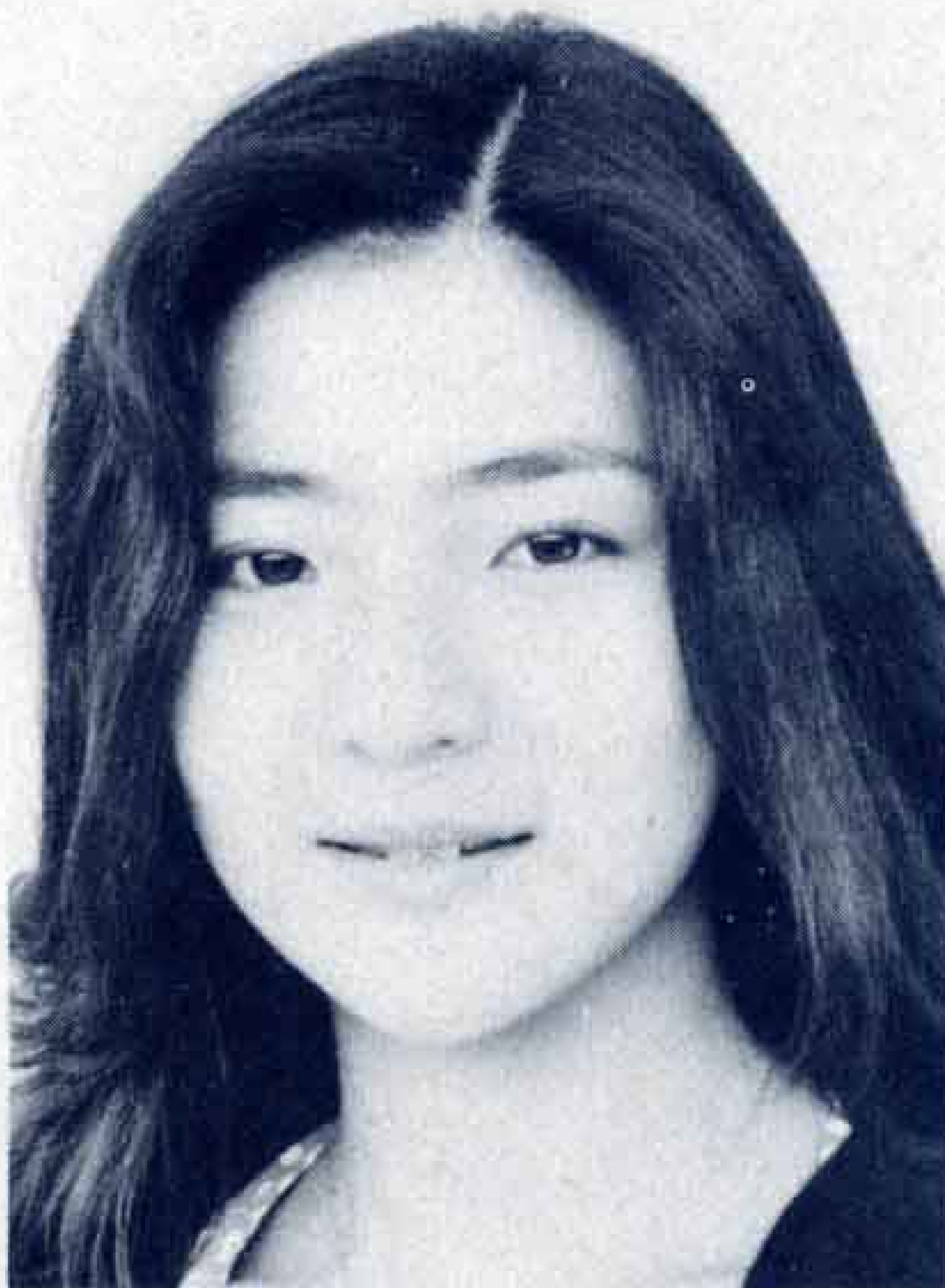
かけるもので、二つの目的があります。

一つは、ペンションに泊まること。なぜペンションかと言えば、費用が安いということもありますが、食事のとき宿泊客全員が顔を合わせ、いろいろな人との出会いがあるからです。

もう一つは、自然を堪能することです。若い娘の旅行といえば、アンノン族を連想する人もあるかもしれませんが、私は人里離れて自然を満喫できるところが好きです。

星がとてもきれいという会津磐梯山へ行く計画をいまたてています。

黒、グレー系統の服の着こなし、落ちついた物腰はとも十九歳とは思えません。外觀だけでなく、立ち居振る舞いやマナーなども含め審査された、きものの女王妙子さん、とてもしとやかです。



茶道教授のお田さん(暢子さん)の指導で小さいころからお茶に親しみ、きものとは身近に接してきました。他に「とがったあ」と太いまゆ毛」実は昨年のミス沼津。十一月十七日に東京で行われる全国大会が期待されます。

も華道、書道、料理、ピアノと習わないものはありません。現在武蔵野女子大一年生で、日本文学を専攻。「普段は活発なんですよ」というとあり、キャンパスではテニスをしたり、こ



全日本きものの女王コンテスト 静岡県代表

えん どう たえ こ
遠藤妙子さん

松本(19歳)